

薬学部

I	教育の水準	教育 9-2
II	質の向上度	教育 9-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に、分子難治性疾患学（寄附講座）、がん細胞と代謝学（共同研究講座）を新設し、医療薬学に関する教育研究を強化している。
- 創薬研究者（基礎研究者）を養成する「創薬人育成のための創薬実践道場教育構築事業」と臨床薬学研究者（研究薬剤師）を養成する「多機能性人工エクソソーム（iTEX）医薬品化実践を通じた操薬人育成事業」により、低学年次からの研究教育を推進している。
- 平成24年度に採択された、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」により、地域薬剤師会等との協働体制を構築している。
- 毎年4月に授業改善を目的としたファカルティ・ディベロップメント（FD）を実施しており、学生アンケートの結果では、「授業がわかりやすい」と回答した割合は、平成21年度の約52%から平成27年度の約75%へ上昇している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成26年度に薬学科及び創製薬科学科のカリキュラムマップを定め、平成27年度には全学統一形式の科目ナンバリングを行い、体系的な教育課程を編成している。
- 平成25年度から「創薬人育成のための創薬実践道場教育構築事業」により開講している「創薬プロジェクト演習」では、製薬企業の研究員と教員の指導の下、創薬開発の提案やプレゼンテーションを行っている。
- 「多機能性人工エクソソーム（iTEX）医薬品化実践を通じた操薬人育成事業」により、平成26年度から国際化教育の経験豊富な外国人教員を講師として招き、「英語研修プログラム」を実施し、学生及び教員の国際通用性を向上させる取組を行っている。プログラムには延べ416名が参加しており、参加者の97.8%がプログラムの内容に「非常に満足している」と回答している。
- 1年次後期と3年次前期に、各研究室での実験等を体験し、教員や大学院生との議論を経験する「薬学セミナー」を実施しており、学生アンケートでは約

70%が「研究室選びの参考になった」と回答している。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から平成27年度における薬学科卒業生の薬剤師国家試験の新卒者合格率は93.6%となっている。
- 第2期中期目標期間における学会発表数は403件、論文発表数は57件、学会賞等の受賞数は32件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から平成27年度における薬学科の就職率は99.5%となっており、そのうち薬剤師として病院や薬局に就職する者は70.8%、製薬会社等への就職は14.6%、公務員としての就職は11.5%となっている。
- 卒業生の就職先に実施した、卒業生の資質や身に付けている能力に関するアンケート結果では、社会的常識、問題処理能力、チームワーク等、17項目中7項目について、肯定的な回答は100%となっている。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 「創薬人育成のための創薬実践道場教育構築事業」の創薬研究者の育成と、「多機能性人工エクソソーム (iTEX) 医薬品化実践を通じた操薬人育成事業」の臨床薬学研究者の育成の取組によって、低学年次からの研究教育を推進した結果、平成 21 年度と平成 27 年度を比較すると、学会賞等の受賞数は 3 件から 6 件へ、論文発表数は 3 件から 9 件へそれぞれ増加している。
- 毎年 4 月に授業改善を目的とした FD を実施しており、授業のわかりやすさに関する学生アンケートの結果では、わかりやすさについて肯定的に回答した割合は、平成 21 年度の約 52% から平成 27 年度の約 75% へ上昇している。
- 平成 26 年度の薬学科及び創製薬科学科のカリキュラムマップの整備、平成 27 年度の全学統一形式による科目ナンバリングの実施等により、学生アンケートにおいて、教育課程の満足度について肯定的に回答した割合は 70% を超えている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 薬学科卒業生の薬剤師国家試験の新卒者の合格率は、平成 20 年度（4 年制）の 74.5% から平成 27 年度（6 年制）の 95.1% へ上昇している。
- 学生の学会発表数は、平成 21 年度の 9 件から平成 27 年度の 103 件へ増加している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。